

変化を乗り越切る判断力・決断力・経営力を!

看護部長通信

2016
2・3月号

会員制 隔月刊誌

企画/編集グループ 発行/日経出版
看護部長通信 第13巻 第5号 平成28年2月25日発行(掲載月の25日発行)

特集1

看護部長力の 習得&向上! 看護部長の仕事術

- 背景別 キラキラと輝く新人看護部長となる仕事術AtoZ
- 部長業務が楽になる、部長が自ら育つ「気づき」の与え方
- カイゼンの思考フレームワーク「KPT」を活用した人材育成
- 問題解決技法による看護部長業務の整理と論理的な解決術

特集2

地域包括ケアシステム構築に向けて!

入退院調整 地域連携 在宅支援の工夫

- 急性期病院としての地域包括ケア・マネジメント
- 「尾道方式地域医療連携」成功のカギとなる連携室・外来・病棟管理者の役割・行動のポイント
- 地域包括ケア病棟の立ち上げと運営の活動成果
- 多職種連携で取り組む地域包括ケア



地域包括ケア病棟の立ち上げと 運営の活動成果

イムスグループ 医療法人社団明芳会 横浜新都市脳神経外科病院



重田京子 Kyoko_SHIGETA
看護部長

1971年神奈川県衛生学院看護学科卒業後、東京病院に入職。手術室師長を13年間経験し、1996年同病院看護部長、2006年東戸塚記念病院看護部長を経て、2009年より現職。企業病院での管理経験に基づき、民間病院での経営参画および看護部の人材育成・定着に携わる。2012年よりイムスグループ横浜国際看護専門学校非常勤講師を務めている。

当院は横浜市北部に位置し、1985年に開院した脳神経外科中心の病院である。317床の病床を保有し、脳神経外科のほかに整形外科、循環器内科、リハビリテーション科、内科を診療科としている。病棟はSCU（ストローク・ケア・ユニット）、一般急性期から回復期、障害者病棟、そして地域包括ケア病棟で運営され、超急性期から回復期・慢性期と一貫した医療の提供を目指している。

病院を取り巻く環境と地域包括ケアシステムと地域医療連携の概要、背景

現在は高齢者1人を若年層2.8人で支え、2025年では2.0人で高齢者1人を支える「騎馬戦型」となり、2050年には1.3人で1人の高齢者を支える状況となることが推計されている。

横浜新都市脳神経外科病院概要

診療科：6科 職員数：583人 看護職員：269人
病床数：317床
入院患者数：年間9万605人（1日平均231.5人）
外来患者数：年間8万4,506人（1日平均248.2人）
病床稼働率：78.3%
平均在院日数：16.7日
入院基本料：一般病床7対1、障害者病棟10対1、地域包括・回復期：13対1、急性期看護補助体制加算25対1、回復期リハビリテーション病棟入院料1
看護方式：固定チームナーシング、プリセプターシップ
認定看護師：3人（脳卒中リハビリテーション看護2人、感染管理1人）
実習受け入れ：2校（実習指導者講習会修了者28人）
年間対外発表：20題（2014年度）



氣田ゆかり Yukari_KIDA
看護師長

2001年3月横浜市病院協会看護専門学校を卒業。同年4月横浜新都市脳神経外科病院に就職。脳神経外科病棟で勤務し、SCUを立ち上げ病棟に異動する。2006年4月手術室に異動し、同年7月看護主任就任。2011年3月看護師長に就任。2014年6月地域包括ケア病棟立ち上げのため異動し、現在に至る。

高齢者が増える中、医療の提供は今までの「治すこと」「救うこと」が多く求められていた時代から、「癒すこと」「抱えて生きること」「支えること」「看取ること」へ変化することが予想される（図1）。そのため、高齢者医療制度の見直しのみならず、目先の課題にとらわれることなく、将来を見据えた長期ビジョンの早急な提示が求められている。今、医療のあり方を問われる時代になっている。

当院が所在する横浜市青葉区は近隣の区と比較し、今後急激な高齢化が進む地域と推測されている。地域医療の役割を考える時に必要な人口動態の変化は、日本の人口が2050年に向けて徐々に変わっていくことを示している。社会保険制度の下に提供される医療・介護サービスの需要・財源は、人口の増減や年齢構成によって大きく左右される。

地域包括ケア病棟立ち上げの経緯

2014年の診療報酬改定に伴い、当院で検討された対策の一つに、保有する亜急性期病床をどのように変更するかということがあった。その時点では、整形外科病棟56床は一般急性期病床32床・亜急性期病床24床で運営されていた。

今後の方向性について、病院長・看護部長・事務長に医事課長を加え、さまざまな資料を基に検